

10月号!

デイケア通信

花 束

○ 菊 三本仕立て ○

デイケアの玄関前の菊は毎日、すくすくと伸びています。草丈は高いもので100cmを超えました。

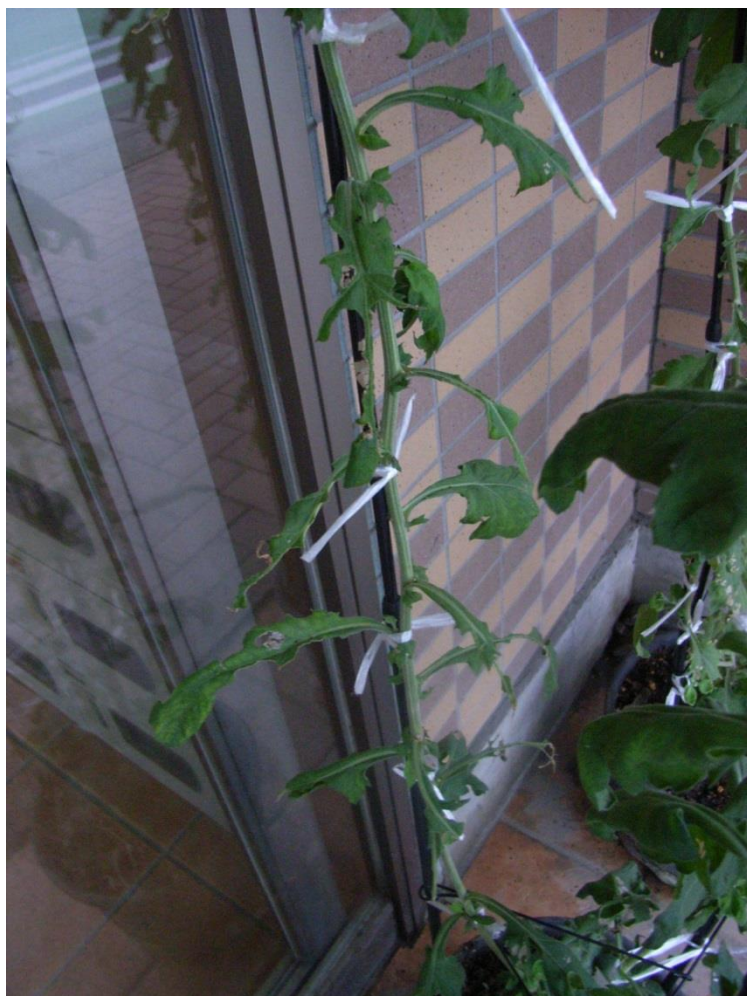


…ですが、最近は葉に青虫がついてしまい、葉がボロボロに…（涙）

畑で作業をされている利用者様に何うと、今年は涼しい夏だったためか夏場は虫が少なく、秋になり少し暑さが戻ってきたため最近になって虫が多くなってきたとお話される方もいらっしゃいました。デイケアの5鉢の菊も、夏は虫食いがみられていたのは1鉢だけでしたが、現在は5鉢とも影響が出ています。

これ以上の被害を防ぐため、消毒をしました。消毒をしているそばから蝶々が飛んできたり、飛んでいたり。蝶々も

一生懸命卵を産もうとしているのですが…ごめんね！



虫に食べられた葉

一番被害が大きい菊は
こんな状態です（涙）
大きな花を咲かせてく
れるでしょうか…？

しかし、葉がボロボロになりつつも、菊は3本の枝の先に蕾を付け始め、花を咲かせる準備を進めています。



摘蕾作業

どの蕾を残すのか選んでいきます。

候補を2つ残しその他の蕾は取り除き、蕾を大きく育てます。



作業中の様子

いつも椅子に座って作業をされていますが、草丈が高くなってきたので、作業が大変になってきました。

作業後は「容易じゃなかった」と感想が聞かれていました。

今の作業は、水やりと、脇芽かき（不要な芽を取り除く作業）、伸びた枝を支柱に結び付ける、枝先に複数できた蕾を選定していく作業を行っています。

現在、蕾の大きさは大きいもので2cmになっています。この小さな蕾が大きな花を咲かせるまでに、どのくらいの時間が必要なのでしょうか？10月中には咲かせてくれるのでしょうか？私たちも初めての経験なので、これからの経過が楽しみです！ぜひ、デイケア玄関の菊の開花の様子にもご注目ください！

○ 熱帯魚水槽 ○

今年6に設置したダイケアの水槽。カージナルテトラという熱帯魚を入れた後、水槽内や水草に生える苔を食べてくれるという「ミナミヌマエビ」という透明で小さなエビを入れました。

ミナミヌマエビ



流れが緩い川、池、沼などに生息し、比較的きれいな水にいます。体長は2～3cm、寿命は約1年とされています。基本的に夜行性ですが、水温が20～28℃の環境であれば昼間でもよく活動するそうです。

餌は必要なく、水草や水槽に生えているコケや熱帯魚の食べ残しなどを食べるため、水槽のお掃除係として活躍します。

よく観察すると、面白くかわいらしい行動をとるため、観賞用としても人気が高いそうです。

ミナミヌマエビは主には、水槽の底や水草の上に乗って、両方のハサミで苔を口に運んでいます。時々、泳いで水槽の上のほうまで上がってることがありますが、その泳ぐ姿がとてもかわいく、見ていて飽きません。また、水槽に入れてから 日程度で、卵を抱えているエビも見られ、利用者様も職員も赤ちゃんエビがみられるのを楽しみにしていました。

そんなかわいらしいミナミヌマエビですが、9月の上旬、急に大半が死んでしまうという事件がありました。事件の前日はいつもと変わらない様子だったエビたちが、翌日の朝には多くが水槽の底に横たわっていました（涙）

あまりに突然のことで、私たちも何が起きたのか分からず大変驚きました。要因を調べ、思い当たる原因を一つずつ修正していきました。そうして、水槽内の

環境を見直した結果、様々な要因が重なり水質の悪化が起こってしまったことが原因だったようです。

死んでしまうことはなかったカージナルテトラですが、きっと苦しい環境で耐えていてくれたのでしょう。反省です…。現在はこれまで以上に水替えや掃除をこまめに行い、良い環境を保つように心がけています。

全滅してしまったかと思われたミナミヌマエビですが、1～2匹のエビと赤ちゃんエビが12～13匹ほど生き残っております！その赤ちゃんエビも徐々に大きくなってきています。この赤ちゃんエビたちが無事に大人になり、また赤ちゃんを産んでくれるように大切に育てていきたいと思えます。

○ 手工芸紹介 ○

この作品はどのように作られているか、お分かりになりますか？



実はこれは黒い画用紙をカッターで切り取って、絵を切り出していく「切り絵」の作品です。

「切り絵」

シルエットの陰影を楽しむ「切り絵」は、ハサミやカッターを使って線を残しながら切り進めるという絵画の手法の一つ。

図案を印刷した薄い用紙を画用紙に貼り、その図案に沿ってカッターなどで不要な部分を切り取っていきます。全て切り取った後、薄い用紙をはがします。

仕上げは白や色のついた台紙に張り付けたり、折り紙などを貼って色を付けたりすることもあります。

この作品はデイケアを利用されている、左半身に後遺症が残る利用者様が仕上げてくださいました。この利用者様はこれまで長く漫画を描いておられました。デイケアで切り絵に出会いその楽しさに気が付かれたようです。

きっかけは職員が飾った魚の切り絵をご覧になったことでした。この利用者様の親類の方にも切り絵をなさっている方がおられ、以前から関心を持たれていたとお話ししてくださいました。

一番初めは、小さく簡単な図案からはじめました。しかし、画用紙とコピー用紙を2枚重ねにした用紙を片手で切り取っていくという作業は、予想以上に難しいと感想が聞かれていました。右手のみで作業を行うため紙に力が伝わりづらく、図案を印刷したコピー用紙だけが切れてしまい、その下の画用紙を切り取るのに何度も繰り返してカッターを入れていく必要があると。そのため、切り口が毛羽立つような部分も見られました。



小さい作品をいくつか完成させた後、「ちょっと休憩」と、新しい作品に取り掛かるまでに1ヶ月ほど期間が空きました。予想されていた以上に細かく大変な作業と話されていたため、ここで中断になってしまうかなと思っていました。

しかし、ご本人から「何か次のやつある？」と意欲を示され、菖蒲と鯉のデザインに取り掛かられました。その作品を切り終え、職員が折り紙で色を付け、完成させた作品は、他利用者様にも好評で、ご本人も「気に入った」と感想を述べられるなど、達成感や出来栄の良さなどを感じられたご様子でした。



その後は休まれることなく作品制作に取り組まれています。現在は、塗り絵を行なっている他利用者様との共同作品をやってみたいとご本人自らアイデアを提案され、意欲的に取り組まれています。



作業の様子

左手で紙を押さえる代わりに、重りを置いて紙を固定し、右手でカッターを使って切り出していきます。

この作品は、絵の枠の部分だけを残すように切り出していく為、カッターで切る面積が多く片手ではかなり難易度の高いものです。「目が疲れるな」と話されつつも、根気よく作業を行なわれています。

切り終えた後は塗り絵を行なわれている別の利用者様の絵と重ね合わせて仕上げる予定です。

完成しましたら、またご報告します！